

# 3 K 新聞

公共交通で買物に行こう！

## バスまつり

を楽しもう！



松江バスまつり開催の様子

今回のテーマはずばり「バスまつり」。九月二十二日に松江で開催された「第三回松江バスまつり」の様様を中心に、地域の「バスまつり」、バスまつりについての考察などをお送りします。それでは、お楽しみください。

♥  
♡  
♥  
♥  
♥

まずは松江市にて行われたバスまつりの模様をお伝えします。昨年同様、地ビール館横の城西西駐車場で行われたバスまつりは、松江北高校



バスの展示会の様子

吹奏楽部によるオーブニング演奏を合図として親子連れを中心に多くの人で賑わいました。

会場ではさまざまないイベントが行われ、バスの展示会では自由に車内の見学や制服を着ての写真撮影、そして運転席に座れるという貴重な体験をすることができました。バスの乗り方教室や試乗会も行われ、バスに乗ったことのない人でも、新たにバスに興味を持ってもらう良い機会に

第3号 24年12月25日  
発行  
島根大学 法文学部  
飯野研究室  
TEL&Fax  
0852-32-6140  
ご意見・ご感想  
kkk\_shin\_bun@yahoo.co.jp

※右の「魚便」とは魚の行商人を街中まで運ぶ専用便のことです。  
(佐藤秀幸)

発車時刻表	
時刻車所	
6:20	454
7:00	834
7:10	魚便
7:20	1156
販売されていた時刻表	

なったのではないかと思います。

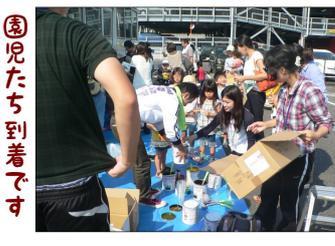
また、島根県在住の大道芸人「さと原人」さんによるショー、バスグッズが当たる抽選会のほか、会場内には屋台やバスパーツ販売店などもあり、どの年代の人も本当に楽しんでいました。どのイベントも楽しみなながらバスに興味を持てるようなものばかりでした。バスには興味がないという方も来年はぜひのぞいてみませんか？



今回のバスまつり会場ではバスの「ラッピングイベント」が行われました。ちなみに、「ラッピング車両」とは、バスや電車などの車両に、あらかじめ広告が印刷されたラッピングフィルムを貼り付けて、外装をほとんど広告に活用している車両のことです。今回は、広告ではなく、子供たちがハートをモチーフにラッピングしてくれました。

それでは、バスがどのように変わっていくのか、写真でその過程を見て行きましょう！

(今回のイベントは一畑バスの協力と市内の幼稚園児の参加により実現しました。)



最初は真っ白なバス



だんだんカラフルに

私たちもこっそり(笑)

見たり、乗ったりできる日があれば、きっとその日は何かイイことあるかも？  
(稲田耕一)



完成！  
このバスは、松江市内を走っています。見かけられた方、乗られた方、もしかしたら、今これに乗っている！という方もいらっしゃるかもしれません。



そして...

# 全国各地でバスマつり

九月二十日の「バスの日」に

ちなんだイベントを行っているのは松江だけではありません。こともたちとバスとの綱引きや、自分の名前やメッセージをバスの行先表示機に表示させての記念撮影（はままつバスフェスタ）等、今年には群馬県を除く全国四十六都道府県で趣向を凝らした様々なバスのイベントが行われています。（日本バス協会HPより）その中でも、ここでは広島で行われた「ひろしまバスマつり」について紹介します。

このイベントは今年で十四回目を迎え、毎年多くの家族連れやバスファンで賑わっています。「ひろしまバスマつり」の人気コーナーは何と言っても部品販売コーナーです。一方回廊やミニバス、両替機などバスファンにはたまらないバス部品の数々が販売されています。



販売されている部品

両替機などバスファンにはたまらないバス部品の数々が販売されています。



部品もぎとりの様子

上写真、廃車となったバスから自分の欲しい部品をもぎとっている様子です。普段は入手できないバスの部品が入るとあって、多くのバスファンが部品を品定めしています。

また、左の写真のボンネットバスのように、普段はお目にかかれない珍しいバスの展示や試乗ができるのも、バスマつりならでは！



ボンネットバス試乗会

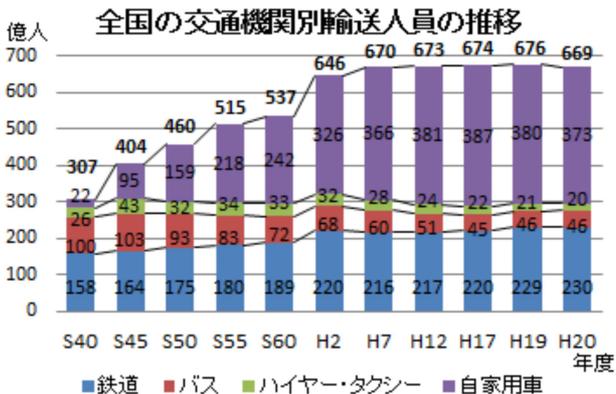
全国各地のバス祭りを訪れて、その土地の色を感じてみるのも面白いかもしれませんね！

※写真は二〇一〇年に撮影

(田原彩子)

## バスを守るために…

ところで、なぜ全国でバスマつりのようなイベントが行われているのでしょうか。その背景には、バス事業の厳しい現状があります。前号の特集では、松江市のバスの利用者数が減少傾向にあり、今後も大きな増加は見込めないという実態をお伝えしましたが、全国でも同様の傾向がみられます。左図は、全国の交通機関別輸送人員の推移です。昭和四十年の時点では、バス、鉄道が全体の八割



を占め、人々の交通手段はそれら公共交通を中心に、車がそれを補完する形になっていました。しかし、昭和四十年代後半から自家用車の輸送人員が飛躍的に伸び、それとは反対にバスの数値が年々減少しており、平成二十年では昭和四十年の半分以下となっています。都市の郊外化と道路整備の進展とが、こうした自家用車の普及に拍車をかけ、人々が日常生活においてバスを利用しなくなりました。さらに、少子高齢化、過疎化の進行によって現在バス事業は特に地方において苦しい状況が続いています。

そこで、各都道府県バス協会などが主催し、全国各地で低迷傾向にあるバスの利用をアピールするイベントが行われているのです。バスマつりでは、乗車体験や車両の展示などの各種バスPRコーナーを通じて、普段バスに触れ合う機会のない人々のバスへの関心を高めることで、バスの利用促進に繋げるのが目的の一つとされています。みなさん、来年のバスマつりでは、バスの抱える厳しい現状も頭の片隅に入れておき

ながら参加されてみてはいかがでしょうか。それまでとは違った思いで、私たちの生活に不可欠な公共交通としてのバスを見つめ直すことができると思います。※数値は平成二十一年度版『地域交通年報』のデータを使用 (竹内美咲)

### 公共交通クイズ



ヒント：古代結婚式発祥の地

答えは次号に掲載

前号の答えは「松江店前」(柏原幸恵)

### 編集後記

いかがでしたでしょうか。今回の「バスマつり」特集。この記事を読むまでご存じなかった方々もいらっしゃると思います。これをきっかけに、次回の「バスマつり」がもっと盛り上がることを期待しています。そして、バスや公共交通についてもっと興味をもっていたら幸いです。

それではみなさま、体調にお気をつけて、よいお年を！

次号編集長は竹内美咲です。

(第3号編集長：稲田耕一)